

## 第2回 神戸淡路鳴門地域等周遊観光ワークショップ

### 議事概要

#### 議論テーマ：明石海峡大橋・大鳴門橋周辺における着地型観光商品造成活性化への貢献

##### (1) 明石海峡大橋ナイトツアーの魅力度の高い商品造成

###### ○明石海峡大橋の塔頂体験ツアーの磨き上げ

- ・ 塔頂体験を教育旅行とする場合、事前・事後学習資料をそろえないと利用していただきにくいので、学習資料もセットでつくとよい。京阪神の子供たち向けに開発してもよいのではないかな。
- ・ 塔頂からの景色を天空から1滴を落とし島ができた国生み神話とつなげられないか。伊弉諾神宮で復活した淡路神楽とも組み合わせられる。
- ・ マジックアワーも美しいと思わる。日没時間に合わせた特別な塔頂体験も作れるとよい。

###### ○ブライダルプランとしての磨き上げ

- ・ 近隣のホテル等と連携を図っていけばブライダル商品も品質があがるだろう。
- ・ 結婚式の前撮り、バウリニューアルの宿泊プランにも活用できる。伊弉諾神宮は夫婦の神様なので物語ともリンクできる。

###### ○富裕層向けプランとしての磨き上げ

- ・ ナイトツアーはプレミアム感を出して差別化すべき。パーソナライズ化し、個人向け・貸し切り等高付加価値なプランが有効。塔頂で乾杯はできなくとも、何か工夫をしてプレミアムツーリズムにつなげてほしい。
- ・ 格好良いコンシェルジュが白シャツにきちんとした格好をしてサーブしてくれるような、素敵な演出が重要。サービスがとても良ければ高値で売れる。
- ・ 明石海峡大橋のナイトツアーでは、飲み物提供方法を検討する。

###### ○明石海峡大橋周辺コンテンツとの連携

- ・ 昼間に塔頂とサイクリングとセットにしたツアーもよい。いずれも体力を使うので、日を分けたり、塔頂せずにクルーズで景色を楽しむような提案もある。
- ・ 美しい芝生でのピクニックプランや、夢舞台の植物園などと連携し特別なディナーできれば、明石海峡大橋のナイトコンテンツに加えて、魅力度が増すのではないかな。
- ・ 淡路島で海事観光のコンテンツ造成を昨年度より実施中。今年度は実証事業を予定。南あわじ市で観潮船を運航する事業者との商品ともセットにし旅行商品の造成につなげたい。淡路島の滞在を少しでも長くして消費拡大につなげたい。
- ・ 岩屋周辺には細い小道・小さなお店があり旅行者にとって街歩きの楽しみがあるため、

ツアーに取り込んでいただきたい。

#### ○明石海峡大橋の訴求強化

- ・ 明石海峡大橋をアイドル化できないか。例えば全景、真っ正面、チラ見、カフェからなど10か所程度の地点を決め、いろんな角度から明石海峡大橋の絶景ポイントを提案し、観光客たちに巡ってもらう。「あいつ、きゅんだよね」的な表現で明石海峡大橋を提案する。

### (2) 大鳴門橋ウォーク体験と、地元の専門ガイドによる淡路島の豊かな食を満喫する体験とのパッケージ化ツアー

#### ○淡路島と徳島における食体験の磨き上げ

- ・ 淡路島3年とらふぐ、瓦で肉を焼くなど、以前に開発されたコンテンツが活かされておりよい。さらに、人形浄瑠璃の太夫も入れられると面白い。
- ・ 海ほたると組み合わせ、島の人も元気な淡路島の早朝を楽しめないか。早朝も宿泊を必須とする。早朝プログラムを開発してはどうか。
- ・ グルメツアーは、フィッシング&イートとして、握りずしをつくってもよいし、芝エビ漁・わかめ漁などとも組み合わせられないか。
- ・ 諭鶴羽山に登るツアーも是非ご検討いただきたい。山頂からみる沼島はとても美しい。アウトドアブランドとコラボし、一緒に登っていただける若いフレッシュな人がガイドでアウトドアスタイルから提案してほしい。
- ・ 淡路島の食には御食国のプライドがある。「フードラボ」というシェフのネットワークを作り、エクスカッションによって食材探シツアー等をすれば自然発生的に進化する。これを機会に進めてほしい。
- ・ 生産者や料理人の交流など、食材に関する学びがあることは重要。生産者と来訪者が信頼関係を結べれば旅の中・後で食材を買うような関係が生まれる。
- ・ 淡路島は渋滞するイメージがある。バスで円滑に移動できるだろうか。食体験に絡めて、海外サイクリストは健康志向が強く、サイクリングと組み合わせられないか。
- ・

#### ○淡路島におけるサイクリング磨き上げ

- ・ 淡路島のサイクリングは、ターゲットとルートがマッチしていない。サイクリングでは時計回りに走るのが、車との緩衝が少なくセオリーである。現在は、海側の崖が怖い初心者が右側通行をし、両側に自転車がいるために渋滞が続く。コースは、リーズナブルに分離できて観光になるならば、生活圏の主要幹線道路と分離すべき。淡路島は南北でコースを分けるべき。北はいぎなぎコースをメインとし、南あわじは鳴門とつなぐ。県境ではなくエリアとして売り出したほうがよい。
- ・ Eバイクの活用をご検討いただきたい。Eバイクであれば、山でもほとんどの人が笑

いながら息もあがらず登れる。達成感もあり、Eバイク活用も重要。

- ・ 世界のサイクリング目的地と比較して、今回の提案の中には、リラックスする場所がない。サイクリストたちは、滞在期間中毎日動くわけではなく、プールサイトで本を読んでいるような時間を大切にしている人が多い。そうした時間を組み込むべき。

#### ○南あわじ市提案「ガイド養成計画」

- ・ 長期滞在観光に向け、今秋より観光ガイド養成講座を検討中。歴史・文化に加え、食のスーパーガイドを育てるため、食文化に重点を置いた養成講座を考えている。提案ツアーにもガイドの活躍できる場があると考ええる。
- ・ 「ガイド養成計画」では、ガイドではなくアテンドの養成を検討してほしい。これから求められるのは、ガイド+保護者の役割。ツアーをガイドする友人のような方である。
- ・ 観光人材発掘において、農業やものづくりの人がシーズンオンオフでうまく回る例も淡路島内で確認している。副業という形で人を確保することもできる。

### (3) 大鳴門橋周辺地域における新しい楽しみ方提案のプロモーション方法、今後の大鳴門橋桁下の自転車道整備に伴うサイクリングの新たな楽しみ方

#### ○大鳴門橋周辺地域における新しい楽しみ方

- ・ 山も海も活用できればアドベンチャーが完成する。1週間、地域で滞在できる商品を作成するとよいものができていく。暮らす旅が完成する。
- ・ 「くるくるなると」プランに、造船技術・水軍技術を組み合わせられれば源平合戦の歴史や水軍文化につながる。島の暮らし＝水軍文化も根付いており、ルーツが好きな欧米の方も楽しんでいただける。
- ・ 藍染は、染める体験ではなく、どこを白く残すかと描く体験。アートプログラムとして進化させるとよい。
- ・ 醤油・日本酒のような発酵食文化は欧米に人気。地域の発酵食文化は世界に誇れる。歴史文化と組み合わせ提示すべき。
- ・ 筏遊びは魅力的だ。今後は人混みの都会やビルの中ではなく、少しでも外に出たいニーズが高まるだろう。案内するガイドの質は重要だ。スタイルのある人であるとよい。

#### ○今後の大鳴門橋桁下の自転車道整備に伴うサイクリングの新たな楽しみ方

- ・ 大鳴門橋の自転車道開通はその時期の最大のニュースになるはずで、ターゲットをしっかりと選び、これに向けたツアーを作っていくべきだ。

### (4) 地域特性を活かした with コロナ期における新たな着地型観光商品検討

#### ○地域全体でのコンセプトの必要性

- ・ インバウンド富裕層の訪問者はしまなみ海道も含めた瀬戸内海エリア全体に来る。3つを全部一緒に考えて超長期滞在をしてもらうことを考えるべき。
- ・ 瀬戸内アドベンチャーツーリズムというような、神戸淡路鳴門地域全体がテーマパークのような印象を受けた。統一したコンセプトで将来まとめられるとよいだろう。

#### ○SDGs の徹底

- ・ すべてのプランに SDGs の背景を置くべき。
- ・ SDGs に取り組める場所に滞在したい富裕層も増えている。おしぼりがプラスチックケースに入っているのもクレームとなる。特に淡路島は環境立島に取り組んでいるということなので、生活に根付いたところから、SDGs に配慮していると思われるプランが発信できるとよい。例えば、海を守るためにプラスチックを廃止したり、フードロス削減のため生産者から市場に出ない野菜を購入して食べるような取組ができないか。
- ・ SDGs はもとより淡路島にたくさんある。淡路島には、誇り高い海人が住んでいた海人文化があった。それを洗い出して地域の誇りを開発できないか。
- ・ 徳島県上勝町はゼロウェイスト宣言をしてそれだけで人を呼べるようになってきている。身近な成功例ともつなげ、エリア全体で取り組んでいることをアピールすべき。

#### ○DX の推進

- ・ 観光改革として、DX 強化を。無理な、無駄な、むらのある経営がなくなり、顧客満足度もあがる。地域 DMO の自走化につながる。
- ・ DX を進めるにあたり、地域で共通認証できる ID を作り、活用することを検討してもよいのではないか。

#### ○プロモーション計画の必要性

- ・ アメリカでは、ワクチン接種が進み、国内市場が戻りつつある。このタイミングで、コンテンツ造成と併せてプロモーション計画も必要。
- ・ 綿密なプロダクト計画に加え、疲弊した観光事業者のために「売る」ことを考え、定性だけでなく定量で目標を決めて成果をあげることを志向すべき。国内・海外で詳細にターゲットを置き、そのターゲットに訴求できる商流を構築するためのプロモーションを行う。そうしてはじめて、地域経済活性化のための取組の効果が表れる。

#### ○with コロナ期における台湾市場向けの取組

- ・ 台湾市場の復活は、今年 10 月を 1 つの節目とし、遅くとも来年 3 月までには入境規制が解除されると認識。
- ・ 台湾では日本政府がコロナワクチンを寄付したため、日本に恩返しに行くという雰囲気

気になっているとも聞く。

- ・ 移動中も楽しめれば長距離でも楽しめる。移動中にオンラインで次に行く地域と事前に議論しておくことも可能になった。コロナ後は、客単価をあげる工夫をしなければ生き残るのも大変。ぐるっと一周ではなく、中身を濃く移動中も楽しめる商品になるとよい。
- ・ 台湾の方は体験型を好む。見に行くよりも自転車を乗りに行く、山を登るなど。また、ツアーのホテルは大型が中心だが、小豆島の醤油の蔵がホテルになった施設などを入れられないか。台湾人は、居酒屋、日本酒や地元の酒を好む。

### **(5) まとめ**

- ・ 明石海峡大橋の魅力向上において「再発見」は重要なキーワード。当たり前とされているものを、しっかり売れる商品になるよう見直す必要がある。「あいつ」というような、アイドルとしての売り方も重要な着眼点。地域の方がうまい形で参加できる取り組みを感じる。
- ・ 明石海峡大橋のナイトツアーでは、飲み物提供方法を検討する。引き続きラグジュアリー路線の検討を進めてほしい。コンシェルジュの対応や、塔頂後の食事・飲み物の提供など工夫をし、付加価値をあげたい。明石海峡大橋の塔頂体験ツアーのナイトツアーを本格化していく。
- ・ 2025年の大鳴門橋の自転車道開通も見据え、サイクリング目線でストーリー性の高いコンテンツを今のうちから全体で構想し、逆算的に必要なしかけを準備しておくことが必要と感じた。
- ・ 台湾の回復は早くも10月、来年3月とのこと。台湾旅行会社の着眼点を説明いただいたので、構成員の方々も参考にいただき来るタイミングに備えていただきたい。
- ・ 南あわじでの食のパイロット事業は、今年度実施方向。やるからには、成功し横展開していきたい。訪問した人間が今後、応援してくれる仕掛けも重要であり、取り組んでいきたい。

以上